

NEXT21/U-CoRo 07 展示関連イベント

4/25

お気に入りの本を手に、
おすすめの場所を歩き、
それぞれの人の心の風景
をたどりました。

春の上町台地 あの子の「本」とお散歩&トーク

4月25日は、あいにく朝から雨模様。でも次第に小雨となり、10数人の参加を得て、心楽しく空堀界隈を歩きました。



春の一日、一人ひとりの人生に寄り添う大切な一冊とお気に入りの場所をめぐる、上町台地の心の旅に出かけてみませんか。

4月最後の土曜日、こんな呼びかけに応じていただいた方々とともに散歩に出かけました。それぞれの「本」でつながる、上町台地のまち歩き&トーク・セッションの開催報告です。

- 開催日時: 2009年4月25日(土) 14:00~18:30頃(交流会を含む)
- 会場: 受付→近隣まち歩き→トーク・セッション=NEXT21ホール(2階)→交流会=会議室(1階)
- ゲスト: 上田假奈代さん(詩人、特活cocoroom代表理事)
秋田光彦さん(大連寺・應院住職)
鄭甲寿さん(ワンコリアフェスティバル実行委員会委員長)
中慈慈子さん(夕陽丘ストリート界隈住人)

■当日のお散歩コース



当日雨天のため、商店街を中心としたコースに変更して実施しました。



NEXT21/U-CoRo ウィンドウ・エキジビション07 (～09年5月22日)

「春の日 上町台地で読みたい本」

「春の日に、上町台地界隈で読みたい本はどんな一冊?」「その本を持って訪れたい、上町台地界隈でお気に入りの場所はどこ?」。そんな問いかけに、52名の方から寄せられたとっておきの「本」と「場所」。この展示では、それぞれの方が選んだ本の実物とコメントが、NEXT21/U-CoRoのウィンドウを飾っています。



小雨模様のなか、「本」を携えて、 空堀界隈を巡りました。

■ 空堀桃谷公園

お気に入りの本を読みたい場所 ①



NEXT21から、まず空堀桃谷公園へ。2人の方が、ここを、本を読みたい場所を選んでいました。

公園に残るクスノキは、ここが市立桃谷小学校だった頃からあったもの。公園前にお店を構える白石さんを訪問して、子どもの頃の思い出話などをうかがいました。



お気に入りの本を読みたい場所 ③

選んだ人: 岡田孝輔さん

ここは、この付近で生まれ育った作家・直木三十五の市民立の記念館。地域の文学的気懐の深さも感じさせます。



観音坂を谷町筋へ、まちのあちこちに、時が積み重なった場所が残されています。



雨上がりの坂道を登り、NEXT21へ。

作家の万城目学さんの最新作「プリンセス・トヨトミ」の舞台は大阪、この空堀界隈も登場します。



選んだ人: 白石善哉さん

選んだ人: 渡辺尚典さん

突然、「大阪全停止」なんてこともおこる!?



■ 空堀商店街

お気に入りの本を読みたい場所 ②

商店街のこの店の方も思い出の本と場所を寄せてくれました。立ち寄ってお話をうかがいました。



選んだ人: 徳力修司さん

上田假奈代さんの朗読から、目の前の風景と時間を超えた別の世界がひろがりました。

■ 練

お気に入りの本を読みたい場所 ⑤

お気に入りの本を読みたい場所 ④

お使いに行く
まいちゃんが階段
を駆け上がる
音がこえた。



選んだ人: 岡本奈子さん

展示写真: 空堀書店



選んだ人: 菅巻志保さん

選んだ人: 酒向八智代さん

展示写真: 練2階サロンdeあり

■ 直木三十五記念館

お気に入りの本を読みたい場所 ⑥



展示写真: 直木三十五記念館

選んだ人: 北川央さん



練の建物は、元は舞子にあった別荘を大正時代にこの地に移築したものの、その有屋敷を再生した空間では、時がゆっくりと流れます。

■ 空堀桃園公園

お気に入りの本を読みたい場所 ⑦

振り返ると、谷から羊飼いの少年がかけこる気がした!?



展示写真: 空堀桃園公園

選んだ人: 関川輝さん

ここがかつては小学校、たまたずと、過去と今が住き来するようなイメージが広がります。

第2部 トーク・セッション 人と本と場所が織り成す 上町台地・心の風景を読み解く

上町台地で生まれ、育ち、学び、働き、暮らす人たちの、一人ひとりの人生に、大切な「本」との出会いや「まち」との交わりがあります。

第2部では、詩人の上田假奈代さんのほか、今回のU-CoRo展示に参加された3名の方にも加わっていただき、トーク・セッションを展開しました。



秋田さんが選んだ
本と場所

詩集「祈り」
山崎三智(著)



展示写真 | 旧内田山陵墓高遊

秋田光彦さん
大蓮寺・應典院住職



中越さんが選んだ
本と場所

『海の日曜日』
今江祥樹(著) 宇野浩二(挿絵)
発行：2007年



展示写真 | 上町公園

中越慈子さん
夕陽丘ストリート界隈住人



生まれ育った
この地域を、大きな
視点から見つめ直す
きっかけを得た。

鄭甲寿さん
ワンコリアフェスティバル
実行委員会委員長

上町台地は、
生者とともに、死者への
祈りが積み重なった場所。

思春期の頃の思いや
将来への夢、いろいろな
意味で、この本が原点。



■上町台地の場所と「本」をキーワードにしたトークは、参加された方それぞれの心の風景を見つめなおす機会となったようです。



■会場からの発言も続き、それぞれの人の「まち」への思いと「本」の物語が重なりあって、さまざまな情景が浮かび上がってきました。

この世に一冊の本が
あるために
何百何千冊の本が...

■最後は、上田假奈代さんの自作の詩の朗読。時と人とは紡いできた上町台地の物語が語られました。

上田假奈代さん
詩人、(株) cocoroom 代表理事

交流会



空堀商店街名物のお豆腐に老舗の鯉節やだし醤油など、お土産をみんなで美味しくいただきました。

お散歩&トークの後、その余韻とともに、「本」でつながる上町台地の出会いと語らいのひとときを過ごしました。



上田さんが選んだ
本と場所

『みみをすます』
朝川夏太郎(著) 朝川夏太郎(挿絵)



展示写真 | 緑ヶ丘公園





上町台地で みみをすます

上田 假奈代

この世に一冊の本があるために
何百何千冊の本が必要で
おなじことばがこの世につもっている

上町台地に 本をもって
腰をおろし 頁をひらいてみる

(実際には 4月25日は雨降りて 立ち読みする)

ことばをひろうと
谷から羊飼いの少年がやってくる
おつかいにくみいちゃんが階段を駆け上がる

貧しい兄妹たちが毎日をいきいきと綴り
だるいキョリを飛び越えてけんちゃんがにやりと笑う
【大阪全停止】なんていうことも起こる
空堀商店街で自転車をとめて話しかけるおばちゃん
茶色い犬と散歩するおばさん
お母さんをみつけて 小さなこどもが走ってくる

夕暮れ

上町台地の雨上がりに夕暮れがやってくる
かつて屋根の向こうに夕焼けに染まった海をみつめた人がいた
みみをすます

今日もいちにちがおわる

何千年何万年 いちにちがおわり
また朝がやってくる
何千何万の夜がつもり
何千何万の死がつもる
何千何万のことばがくぐもって
いのりのような夕暮れ

みみをすます
台所の鍋のふたが鍋にあたる音
かばんを床におろす音
自転車の鍵をかける音
いつもとちょっとも変わらない夕暮れに
夜がつもり
また 朝がやってくる

まち歩き&トークセッションの最後に、上田假奈代さんが、この日のことを振り返って自作し朗読された詩を紹介しします。

